

うえだの輪

の話の

つないでいく地域のこれから

その 7

診療所だより

第四四九号（10月号）

発行 医）宏友会
上田診療所
酒田市上野曽根
字上中割73番地
TEL.0234-27-3306
責任者 矢島恭一

貴重な集落史

今回お話を伺った島田良彦さんは、長年集落の研究につとめ、『本登勝代と庄内のさきがけ達』や『村の歴史と上田の三女傑』という著書を出版し、上田地区に貴重な歴史資料を残した方です。道路工事や治水整備によって生活の利便性は向上しましたが、一方で景観やそこに生きる生物までもが一変してしまいました。かつてそこにあった風景を形にして残したいという思いから活動を行っていた中、文化祭の展示の題材に

島田良彦さん

地域の一員として、身近にある史跡や伝承に耳を傾け、語り継いでいく——島田さんの著書は、そのきっかけを与えてくれるものとなりました。

そして今年、上田地区に安田バイパスの開通という新たな風が吹きました。島田さんは次のように述べています。



一冊目と二冊目の著書

安田バイパスに 期待すること

総バ事業開始の頃県から提示されてから四十五年が経ちました。当時を知る一人として非常に感慨深いものがあります。どんどん進む車社会の中で、安田の村中を避けて大半の車がバイパスを通ることは大変ありがたいことです。

折角の国道、城輪柵跡を始めとして新田目城址、一条八幡神社等周囲の史跡に限らず、東平田の延命寺や平田町の飛鳥神社、さらに松山町の歴史探訪、観光と酒田市東部に人が足を運ぶ基幹道路となつて欲しいと思います。

また、上田小学校時代に作られた「上田の山」は田園風景まつ只中、バイパスはS字カーブを描き鳥海山を背景にカメラアングル最高の所と思われまうので、頂上に平和の鐘や、ベンチを置けば四季折々和めるところになるのではと期待しております。

時代とともに移りゆく景色の中に改めて地域資源の魅力を認識し、地域の強みにしていく。安田バイパスの開通が追い風となることを願っています。

シリーズ「ふるさと」

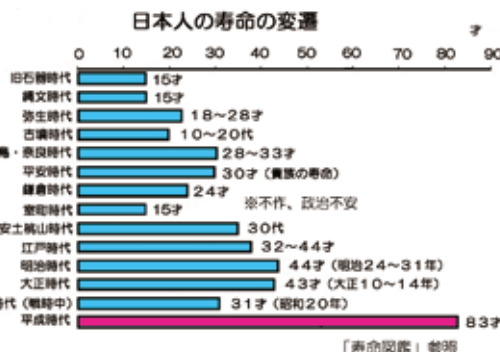
その198 長寿社会の到来

「老人」とは何才以上ですかと問うと、若い人は60才、年配者は80才ぐらいと答える。同う人の年齢や平均寿命の違う国によって、イメージは違うようだ。縄文時代の寿命は約15才

「ゆつくりと長く」老いるからである。子育ては手数がかるため、手助けする老人がいる家庭は安心して子どもを産み育てる事ができた。また、文明社会を維持し発展させるには次世代を担う子ども

の育成が大切である。そのため親や祖父母は「元気で長生き」をして子育ての支援をする必要があった。図を見ると、社会が豊かになるにつれて寿命は延びている。生活の基盤が安定すると子供が増え、高度な技術や知識を持つ老人の活躍する場も多くなる。老人が生き生きと活動できる社会が長寿社会を創り出す源のように思う。

（庄内 平也）



「15才から49才まで」で、統計上では50才頃から「老人」である。野生の動物は「子供を産んだら死ぬ」のが原則で老化や老後は無い。子供を産んだ後も生き続けるヒトは「特別な動物」である。寿命が延びたのは「若い時代」が延びたのではなく「老人」が

（庄内 平也）

シリーズ「ふるさと」最終回！

今月号で庄内平也先生のシリーズ「ふるさと」は最終回となります。

長い間ご愛読いただきまして、ありがとうございました。

シリーズをまとめた『続・庄内百考』は診療所窓口他にて発売中です。

ぜひお買い求めください！



令和6年12月2日より
従来の保険証の新規発行が行われなくなりました。



マイナ保険証での資格確認にご協力をお願いいたします！

ホットニュース

中間管理者研修



所内勉強会



小児対象経鼻
インフルエンザワクチン
について学びました

診療所と道路の歴史

矢島 恭一

昭和61年（一九八六年）に開業した上田診療所は、今年10月1日で40周年を迎えました。

前回30周年記念パーティー（老健うららの開設20周年も同時開催）の席で、「もし私があと十年元気に仕事を続けていたら、40周年記念パーティーには、本日ご出席の方々もまたお会いしましょう。」と挨拶したことを憶えています。その時は半分夢物語のつもりでした。

では40周年記念パーティーは？となりますが、その後の動きとして現在医療法人で運営している診療所や老健施設を、ケアハウス、保育園などを運営している社会福祉法人本楯たちばな会と経営統合するという話が持ち上がり、現在進行中です。そこで実現した折に、お披露目パーティーを開こうという企画に変更されました。

統合より一足早く、10月には当地区で長年待ち望まれていた道路が完成します。私には、この道路の完成までの道のりが、診療所の歴史と深く重なります。

木造の古い診療所を酒田市から譲り受け開業した40年前、診療所の前を走る道路は、砂利道でした。酒田市から本楯方面のメイン道路は、昔からの集落を通る細い道しかなく、そこをバスが走っていました。

そのうちに泉陸橋ができ、そこ

からまっすぐ伸びる牧曾根バイパスが整備され、診療所脇の砂利道も舗装され、こちらが本楯方面のメイン道路（県道）になりました。またその頃、農業の効率化を図るために基盤整備が行われ、その真ん中を東西に通る道路ができました。



そんな中、悲しい事件もありました。診療所で診察を終え、自転車で帰宅途中、今は信号が着いた田んぼの真ん中にある交差点で、車にはねられて亡くなるという事故でした。（信号機が着いたのは、その後でした。）

そして今月開通する通称安田バイパスと呼ばれる新道路です。ライスセンターまでは、土盛りがされ、数年後に道路ができたもののその先上安田方面までの法線が決まらず何年も経過しました。その間地元のコミセン会長や有力者が行政機関、政治家などに何度も交渉に行き、一時は立ち消えになることもあったと聞きました。

私のこの道路の思い出は、新しい診療所ができ、しばらく経った頃、

今は無くなったJAの米保管倉庫裏の田んぼを利用して、老健を造ってほしいという要望でした。丁度本楯に老健うららを造る頃ですから30年も前のことです。その時の話は、「新しい道路ができることで利便性もあるだろう」というもので、多少心を揺すられたのですが、それから経過を考えると、やらずに良かったと思っています。昨年残念ながら亡くなられた地元の有力者だったSさんは、うららの通所リハビリに通う送迎車の中から道路の進捗状況を眺めては、「いつ完成するのだろう」と、とても楽しみに語っておられたことを思い出します。

確かに道路の完成には、何十年という歳月がかかり、その完成した姿を見ることがなく旅立たれる方もおられます。これも診療所の歴史そのものです。

さて最後になりましたが、とても残念なお話です。

この「診療所だより」の2面に、平成19年5月（二〇〇七年）から18年間一度も休むことなく「庄内平也」のペンネームでご投稿いただいております。池田充直先生は、今年2月末に急逝されました。生前に頂いていた原稿は、ご家族の許可をもらい今月号まで掲載して参りました。それも今月号が最後になります。先生は、小誌への掲載文をまとめて2冊の本にしておられますので、是非こちらにもご紹介いただければ、長年のご苦勞に報いることになります。



「太陽の光と晴れた空」



「へいわな せかい」

こどもたちの
さくひん
鳥海小学校

▶ イエローグリーンキャンペーンの
フォトコンテストに応募したところ
3位入選しました！

▶ 毎日お世話になっている
自宅の筋トレルーム 🏠💪

vestagram



看護師
古庄 えり



「雨中の点灯式」



職員が撮ったお気に入りをご紹介します★

富山市在住の土田芳男さん（百歳）
より届いた絵手紙をご紹介します。



絵
手
紙

今
月
の



山形県と隣り合っている都道府県を
答えてください。

脳トレ
アタマの体操

9月号の答え

- ① しゅうぶんのひ（9月）
- ② けいろうのひ（9月）



答えは
来月号です 🎵

編集後記

学校で習う一般的な歴史と違い、
地域史は残そうと努力しなければ、
簡単に消えてしまうものです。
島田さんの著書はいつか誰かが上
田の歴史を調べるとき、大変貴重
な資料となります。大学時代に文
献史学を専攻していた私は思うと
ころがあり過ぎて、つい熱が入っ
てしまうのでした。
（平井）

発熱・風邪症状（のどの痛み・
鼻水・咳等）がある方は受診す
る前に必ずお電話でご相談くだ
さい。
電話をせずに来所してしまった
方は診療所内には入らず、駐
車場から一度お電話していただ
き、当方からの指示に従ってく
ださいようお願いいたします。

ご理解・ご協力のほどよろしく
お願いいたします。

お知らせ
医師都合により
10月25日（土）
は休診となります。

